

万世大路保存会主催による「秋の万世大路散策」が10月6日開催されました。9時マイクロバスでコミセンをスタート。萬歳の松を見学し、萬世大路記念碑公園で駐輦碑などを見学、散策開始。往路の所要時間1時間30分、予想以上の距離に初参加者から驚きの声があった。隧道口前で昼食後、元気を取り戻し復路についた。コミセンでの芋煮を食べながらの反省会では、「隧道の手彫り跡に感動した」「百聞は一見にしかず」「当時の苦勞が何われ面白かった」という声が聞かれた。



10月12日米沢文化ホールで行われた第9回山形県社会教育研究大会のアトラクションとして、万世小学校6年生の皆さんによる「梓山子ども獅子踊り」を披露しました。口上では笑いがこぼれ、和やかな雰囲気の中、立派に踊りを披露し、会場から多くの拍手をいただきました。



露堂
しました
した。踊りを披



第41回万世地区健民ソフトボール大会
9月30日に予定されていたソフトボール大会は、雨天のため中止となりました。
来年は雨が降らないことを期待します。

10月19日菊地政信さん(桑山1)と富樫修一さん(桑山2)のご協力を得、万世コミュニティセンター南側緑地の整備を行いました。緑地を囲むウコギと桜の木の枝打ちも行ない、見通しが大変良くなりきれいになりました。ウコギの垣根は開館当時のもので、垣根としては見苦しかったので根を残し整理しました。また桜木は開館5周年の時、記念の植樹としたままで、幹が見えない程になっており、樹下に入れなかったため見通しよく整枝しました。



第20回木楽里祭の記事は次号でお知らせします。

万世体協とコミセンとの共催事業
万世地区体カづくり

5月～10月の全9回38人が参加し、ローラースキー・ランニング・室内トレーニングに分かれて行われました。
1月から始まるクロスカントリースキー講習会に向けて体力をつけました。
2月の市民総体スキー競技では入賞目指して頑張ります。



右：
室内トレーニングの様子です。



左：
元ユニバーシアード日本代表 鈴木貴弘さん(北部小・第4中出身)の指導の様子です。



右：
ローラースキーの練習風景

今年で万世コミュニティセンター開館20周年となりました。その記念事業として秋の木楽里祭において、植樹と絵画コンクールを実施しました。記念の植樹は南側緑地の水場付近に早春に黄色の花が咲き、秋には赤い実のなる彩りの木「山茱萸(さんしゅゆ)」を管理委員長、館長、来賓、正副実行委員長、小学生代表で行いました。絵画コンクールは応募数26点、受賞者は以下のとおりです。

特選	うめはらたいようさん	小学1年
金賞	加科有希子さん	一般
金賞	松田日菜さん	中学2年
金賞	川崎史佳さん	小学4年
金賞	長岡しほりさん	小学4年
銀賞	渡邊桃羽さん	中学2年
銀賞	齋藤結衣さん	中学2年
銀賞	金子陽可利さん	小学4年
銀賞	北原優介さん	小学4年
銀賞	梅津はるひさん	小学4年

ご協力ありがとうございました。

記念植樹

特選作品



市長を囲む座談会の要望案件実現

◎新たな防犯灯設置決まる
桑山3町内の高速道路高架下に米沢市防犯協会事業として決定した。
◎悪質な不法投棄対策
不法投棄は犯罪というチラシを米沢市衛生組合から受け全戸配布し、周知を図った。ところが、10月に入って八幡原緑地公園(通称さくら公園)付近に不法投棄されていることが分かり、米沢市で「不法投棄者調査中」という旗を立てた。調査にご協力下さい。



公共交通万世線冬季バス時間変更のお知らせ

第1便上りの時刻が15分早まります。福祉の里入口7時25分が7時10分発となり、高校生が市内高校にバス通学できるように変更になりました。詳しくは、11月15日号の米沢市広報をご覧ください。



本社工場外観

所在地
TEL 八幡原2-4616-5
28-1-1511

主な製品



八幡原企業協議会コーナー
三洋工業株式会社

当社は、独自の技術とノウハウを生かし、一層の業務拡大に努めてまいり、現在に至ります。
当社は、大正10年に創業し今年で創立97年を迎えます。昭和55年に八幡原工業団地に移転し現在に至ります。
当社はアルミニウム合金の持つ機械的性質を十分に生かした熱間鍛造品の製造メーカーとして、絶えずニーズをつかみ、共に歩み、お得意様より高い評価を頂いております。製造においては、金型の設計、素材検査から切断、鍛造、トリミング、熱処理、アルカリエッチング処理、機械加工、仕上、品質検査までの一貫した生産体制を構築しております。近年、各分野において省資源、省エネルギーの観点からますます安全性を考慮した軽量化が求められています。広範囲な分野で活用されているアルミニウム製品はその一翼を担う製品として多くの期待が寄せられており、当社の活躍のフィールドも広がっております。
今後も、独自の技術とノウハウを生かし、一層の業務拡大に努めてまいり、現在に至ります。